

校長室より

暗唱だより

令和7年5月1日

第三吾嬬小学校長

川中子 登志雄



新しい年度が始まって、ひと月たち、ゴールデン・ウィークがはじまりました。暖かい、良い陽気になってきましたね。新しいクラスにはもうなれましたか？

1年生も加わり、第三吾嬬小学校は現在、543名の児童と一緒に生活しています。



暗唱も、たくさんの方がちょうせんにきてくれました。クラスみんなで練習してくれているという話も聞きました。

私が出かけていて、るすにしていたこともありましたので、せっかく来たのにできなかったという人もいたかもしれません。暗唱は、いつでもちょうせんできますから、また来てください。校長室で皆さんが来るのを、楽しみに待っています。

ています。

さて、5月の暗唱課題は・・・

『枕草子』春はあけぼの

今から1000年以上前の、平安時代に、清少納言が書いた『枕草子』から、第一段の「春」「夏」にちょうせんします。これまでも何度か課題にしましたが、やはり「これは外せない！」という、日本の古典です。

『枕草子』は、鴨長明の『方丈記』（「ゆく河の流れは絶えずして…」）、吉田兼好の『徒然草』（「つれづれなるままに、日くらし硯にむかひて…」）とともに、「3大随筆」と呼ばれる優れた作品です。今回挑戦してもらう「第一段」は、清少納言が日本の四季のそれぞれのお気に入りを書いた作品です。特に出だしの「春」は有名です。1000年以上経った今でも、みんなに親しまれているなんて、本当にすごいことですね。

【清少納言】平安中期の女流随筆家・歌人

歌人清原元輔（もとすけ）の娘。紫式部と並び称せられた才女で、一条天皇の中宮定子に仕えた。著書に『枕草子』、家集『清少納言集』。

しゅつてん おうぶんしゃにほんしじてん
出典 旺文社日本史事典 三訂版